

30T-pm09

新薬創出加算に関する薬学 - 経済学横断的解析

○鈴木 岳之¹, 相川 大輔¹, 伊東 敏¹, 反町 知希¹, 森田 和仁¹, 千葉 康司¹,
中村 洋²(¹慶應大薬,²慶應大院経営管理)

【背景・目的】 一定の要件を満たしている新薬に関しては加算を設けるとい
う「新薬創出・適応外薬解消等促進加算」(以下、「新薬創出加算」)が平成 22
年度薬価制度改革において導入された。本研究では、新薬創出加算の対象とな
った医薬品目についての分析を行う事で、現状分析と、製薬企業の将来的な新
薬創出戦略について考察する事を目的とする。

【方法】 日本国内における売上上位 300 品目 (2009 年 9 月度) のデータベ
ース化を行い、統計解析ソフトウェアを活用し新薬創出加算対象品目についての
記述統計を得る。

【結果】 類似薬効あるいは代替品目の少ない領域 (抗癌剤、神経系領域) あ
るいは新規性・有用性の高い新薬において、薬価と市場実勢価格との乖離率が
低く設定され、新薬創出加算の対象となる傾向にある事が示唆された。また、
外資系企業からの上市を中心とする抗体医薬品・生物学的製剤に加算対象品が
多く見られ、内資系企業との大きな格差が見られた。

【総括】 今後の企業戦略として、抗癌剤市場等の、代替品、競合品の少ない
領域への創薬へ踏み出す様、製品ポートフォリオの見直しが求められる。また、
企業の有する品目全体の乖離率は一定の状態、加算対象品目の乖離率は抑え
プレゼンスを保つ様なマーケティング戦略も重要となるであろう。